

日々あらた

No.11

2017年2月1日発行
編集：会報編集委員会

「会員交流研修会」を開催して

会員互助会幹事 篠原 一

昨年12月9～10日に、毎年恒例の「会員交流研修会」を湯田中温泉で開催いたしました。開催に際しては、出来るだけ多くの会員の皆さんに参加していただけるよう、期日・場所・研修テーマ等について幹事会で打ち合わせを行い準備いたしました。

当日の研修会は、昨年大河ドラマ「真田丸」ということもあり、須高地域の山城を題材にした話をしていただき、大変興味深く聞くことができました。研修会の後は、温かい温泉につかり日頃の疲れを癒していただけたことと思います。入浴の後の交流会では、日頃の就業や健康、そして趣味のことなど酒を酌み交わしながら語り合い、大変楽しい時間を過ごしていただくことができました。



山城のお話を聞く

講師 山城研究家 馬場 廣幸氏

会員の皆さんの多くは、現役時代ほど外での活動は多くないと思います。



自分自身の生きがいや健康のためにも、外に出て人と交流したり活動することは有益です。互助会の行事にも、多くの皆さんに参加していただければと思います。

大変興味深くお聞きしました

役員研修会に参加して

理事 関 光男

今年度は11月26～27日の2日間、福井県の大野市シルバー人材センターへの研修に参加させて頂きました。

早朝5時にスタート。総勢21名、車中にて理事会を開催、今年度上半期の業績を事務局より報告を受け、会員数と事業実績が前年比微減であったが、ほぼ順調で特に問題なく進んでいると了承されました。

大野市シルバー人材センター到着は予定より早く着きましたが、同センターの理事長さん事務局スタッフの出迎えを受けて、早速概要の説明を女性の事業課長さんから受けました。とりわけ注目したのは独自事業の多い事と、女性会員の多さ、会員各位が低時間給で活動していることでした。独自事業で女性会員の働く場所を確保しているのだと感じました。その後独自事業である「ねんりん茶屋の一そん」で昼食を頂きました。会員7名で切り盛りしているとの事でした。昼食後アンテナショップ「ねんりんの里」で農産物の販売所を見学しました。13名で、年間1,800万円の売り上げ、延人員25,853人日で、ほとんど一般の店と変わらないと感じました。又、農産物を生産している方が187名、80歳以上が30名と聞いて驚きました。

こうしたセンターの運営には会員同志の理解がないと難しいと思いました。今後は須高広域シルバー人材センターとしても、女性会員を増やすと共に、活動場所を見つける必要があることと、年々歳を重ねるので、高齢の会員でも働ける場所づくりが必要と感じました。最後に会員相互のコミュニケーション作りとセンターの発展に微力を尽くしたいと思います。

大野市・須高広域シルバー人材センターの概要

	大野市シルバー	須高広域シルバー
人口	34,513人	約69,000人
会員数男性	345人	444人
女性	358人	230人
合計	703人	674人
事業実績	35,981万円	31,880万円
独自事業	5,810万円	46万円
延べ人員	119,579人	67,370人



ねんりんの里を訪問

内、独自事業12業種 164名
延人員 51,321名

大野市は福井県の東部で面積は福井県最大で、森林面積は87%です。

大野城を中心に栄えた城下町で市内のどこからでも城が見える。道路や町並みが整備されていて北陸の小京都と呼ばれている。